

農学部の三ツ井敏明教授が日本応用糖質科学会平成 30 年度学会賞を受賞

日本応用糖質科学会平成 30 年度大会（第 67 回）・応用糖質科学シンポジウムにおいて、農学部三ツ井敏明教授が「イネにおける澱粉代謝関連酵素の応用分子細胞生物学的研究」により学会賞を受賞されました。

平成 30 年 9 月 11 日に秋田県立大学において開催された受賞式および受賞講演においては、 α アミラーゼの細胞内輸送の研究から発見された新しい細胞内輸送のしくみ、高温登熟における水稻米の品質低下と澱粉分解の関係および α アミラーゼ・活性酸素消去との関係が見いだされた経緯、またその後の高温耐性品種の開発等の成果について共同研究者への謝辞とともに御講演されました。

日本応用糖質科学会は、デンプン構造、オリゴ糖生産、酵素利用など、糖質の基礎から応用、産業化まで、大学・公的研究機関・産業界の密接な協力の下に糖質産業と関連研究分野の振興を図ってきた学会です。学会賞は各種糖質科学及び関連する酵素科学並びにそれらの関連産業の発展に関し、顕著な業績、功績のあったものに授与される賞です。今回の受賞はこれまでの三ツ井教授の澱粉代謝関連酵素および分子細胞生物学的研究における多数の優れた業績および農業現場の課題解決に資する研究が評価されたものです。

